



[PL.3]
下村北心斎《老萊子》
1883 (明治16) 年頃
(2011-JP-007)



[PL.4]
下村北心斎《郭子儀》
1883 (明治16) 年
(2011-JP-003)



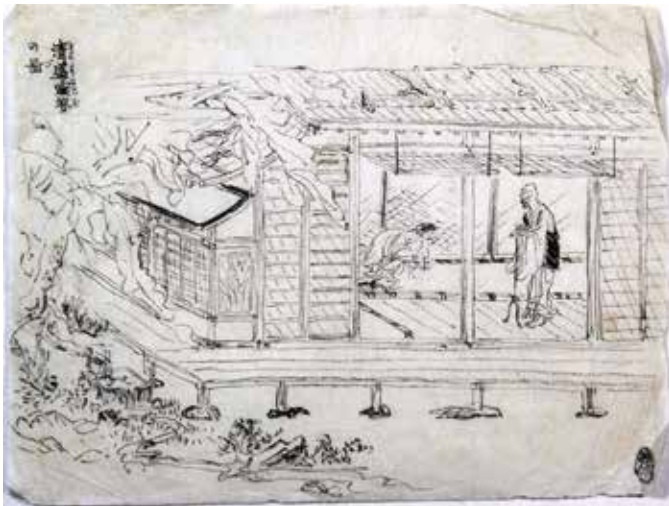
[PL.5]
下村北心斎《東方朔》
1883 (明治16) 年 (2011-JP-004)



[PL.6]
下村観山《石榴天神》
1889-93 (明治22-26) 年頃
(2011-JP-093)



[PL.7] 下村観山（推定）《模写「北野天神縁起絵巻」》（部分）1889-93（明治22-26）年頃か（2011-JP-193）



[PL.8]
下村観山（推定）《清盛霊夢の図 小下絵》
1900-1910年頃（明治末）か
（2011-JP-257）



[PL.9]
作家不詳《羅漢図》
制作年不詳（2011-JP-189）

資料紹介

入江家旧蔵「下村観山 画稿・素描等作品資料群」総覧

内山 淳子

はじめに

横浜美術館では、2011（平成23）年度に、栃木県宇都宮市の入江宏氏から下村観山の画稿を中心とする絵画作品及び関連資料の一括寄贈を受け、295件の作品と9件の作品外資料として所蔵品登録を行った（登録番号2011-JP-003～297、2011-M-001～009）。

入江宏氏は、宇都宮大学等で長年教鞭を取られた近世教育史家で、下村観山の縁戚に当たる方であった（2017年ご逝去）。宇都宮の入江家は、観山の長兄で能面師、彫刻家でもあった下村清時に師事し、その娘の幹と結婚した能面師・入江美法が出た家系である。また美法の弟の入江多平は観山に弟子入りし、一時期は横浜・本牧和田山の観山の画室で住込み書生をしていた。これらの作品資料は、おそらくこうした縁から、観山の没後に戦時疎開のために親族である入江家に託された可能性などが推測されるが、今日では詳しい経緯は不明である。多平の甥にあたる宏氏は、ご先代より承継したこれらの作品資料一式を大切に保管してこられた。

全ていわゆるまくり（未表装）の状態であったこれらの作品資料群には、狩野芳崖が授けたとも伝えられる斎号「北心斎東秀」を観山が名乗っていた少年期に描いた臨模作品のほか、東京美術学校在学時の課題作品や、在学中に発表して出世作ともなった《熊野観花》（東京藝術大学所蔵）や《日蓮上人辻説法》（同前所蔵）の画稿、さらに《魔障図》（東京国立博物館所蔵）や《春雨》（同前所蔵）など、本画が現存する壮年期、円熟期の重要作の画稿が含まれている。加えて、俄かに本画の存在が確認できないものの、明らかに本画制作の意図のもとに準備された最終段階のものと思われる、整理された迷いのない線による画稿も数多く含まれている。また、観山の手ではないと思われる作家不詳の作品も混在している。

受贈作品資料のうち10点は、2013（平成25）年に観山の生誕140年を記念して当館で開催した「下村観山展」に際して裏打ちを施し、観山の初出作品として紹介した^[1]。さらに翌年以降、本画が知られる作品の画稿を中心に16点を当館コレクション展で初公開したが、引き続き順次公開を計画して段階的に表装を進める必要がある。また、未公開の一部作品には強い折り皺、紙の破断や欠損があり、また紙葉を貼り合わせた作品については糊剥がれが著しいため、今後の修復を要する。

総覧の作成について

本稿では、受贈直後に発行された『横浜美術館収蔵品目録2011』（以下「2011年度目録」と記す）に収録を行った時点では、十分に調査が尽くせずに仮題とした作品名や、不詳とした制作年代について、できる限り調査を進めて特定または推定を行い、また不明であった画題が判明したものは作品名に修正を加えて、時代別かつ主題カテゴリー別に分類・整理した総覧を作成して掲載することを趣旨とした。

また、2011年度目録収録の時点では、款識がなく、本画や類作の存在も確認できず、かつ明らかに観山とわか

る筆致の特徴が俄かには見出せないと考えた作品を「作家不詳」と分類していた（登録番号2011-JP-187～297）。本総覧の作成に当たっては、これらの作品の図像細部の筆致や、色の指示書きなど書き込まれた文字の筆跡をあらためて詳覧し、観山作と特定できる作品群と再度比較した。その結果、北心斎時代も含めて観山が制作した蓋然性があると再考し得たものについては、本総覧の「作家名」欄に「下村北心斎（推定）」もしくは「下村観山（推定）」と修正して記した。

「作品備考」欄には、各図像に描かれた要素や場面の特徴のほか、画題の特定または推定の根拠となった情報（道釈画や故事人物画におけるアトリビュートなど）や、画稿の制作年代の推定の根拠となった本画や類作に関する情報を記した。また、画中の署名、年記、印章、その他書き込みなどの付帯情報を、右端の「款識、書き込みなど」の欄に記した。

作品の画像については、2011年度目録に掲載があるため（ただしM-001～009のみ画像掲載なし）、本総覧の閲読や活用に当たっては同目録を同時参照することを前提とし、本総覧にはサムネール画像の掲載を省略した。また同じ前提により本総覧では、2011年度目録のデータに修正を加えた箇所のマーキングや、目録の元データの併記は行わなかった。

なお、本総覧作成に際して行ったデータの特定、推定、修正の内容は、現段階では筆者個人の責によるものであり、2011年度目録に収録したデータに基づく当館の公開所蔵品データベース（「コレクション検索サイト」）及び館内用データベース（非公開）の作品情報には未反映である。これらの館データベースへの反映（情報改訂）に当たっては、本総覧をもとに、引き続き館内外の観山研究者の所見の集約が必要と考えるため、向後、速やかにこれを行いたい。その結果として、本総覧の一部データにさらなる修正が生じる可能性がある。

各時代別作品群にかかる特記

1. 北心斎時代

本作品群は、款識から手本臨模であることが明らかな作品及び構図や筆致の様子からおそらく創作ではなく臨模と推察される作品を中心とする。また、北心斎或いは下村晴三郎の署名のある紙葉を含む、植物や小動物の写生などの仮綴帳1冊（全50図。2011-JP-070-01～50）がここに含まれる^[2][fig.1, 2]。臨模作品は、1882（明治15）年から観山が師事したとされる狩野芳崖や、芳崖から観山の指導を受け継いだ橋本雅邦が与えた手本に拠っ



fig.1
下村北心斎《写生仮綴帳》
1883-93（明治16-26）年頃か
（2011-JP-070 全50図のうち第41図）

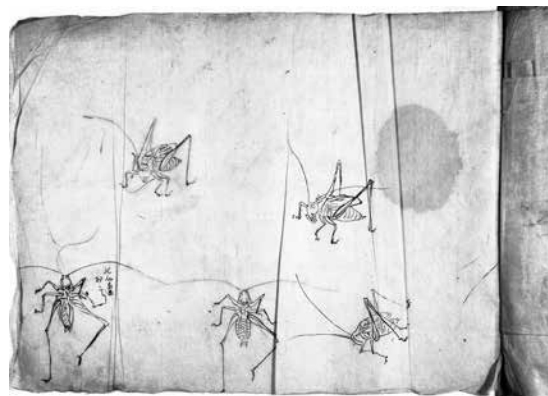


fig.2
下村北心斎《写生仮綴帳》
1883-93（明治16-26）年頃か
（2011-JP-070 全50図のうち第47図）

たものと考えられる。いわゆる「懸腕直筆」の筆法による狩野派特有の線描が忠実に再現された、典型的な道釈画主題や四君子の主題の作品などから成っており、誰の筆跡であるかは明らかではないものの、師によるものと思われる朱書きの筆削が入った作品もある [例：PL.3]。一方で、人体の四肢表現の学習として取り組んだと思しい手足の部分図や力士の全身図の臨画には、陰影によって力強い筋肉を表した写実的な描写も見られる（ただしこれらの一群には北心齋の款識はなく、「手本也」の文字と手本の番号を示すと思われる「〇〇番」の文字が記され、しかも前者と後者の文字の筆跡は明らかに異なる。このことから、観山が師から渡された手本に番号を振ったものである可能性も捨てきれない） [例：fig.3, 4]。いずれも観山の早熟の才を示すのみならず、粉本模写を基調とした明治前半期の指導の実例を示す点で、貴重な作品群と言える。向後、現存する狩野派絵手本類の調査を行うことにより、具体的に使用されたと考えられる手本やその類例との照合が実現すれば幸いと考える^[3]。

本作品群のうち「北心齋」の款識のあるものの年記は、全て1883（明治16）年から1886（明治19）年の間に限られている。制作年を特定できる北心齋時代の最古の作としては、観山の子・下村英時の言及によって「明治十六年十月廿一日」の年記のある手本臨模《太公望》が長らく知られてきたので^[4]、本作品群中の《郭子儀》（2011-JP-003） [PL.4] と《東方朔》（2011-JP-004） [PL.5] は、これをさらに遡るものとなる。一方、観山（本名：晴三郎）が岡倉覚三（天心）から与えられたとされる「観山」の号を名乗るようになるのは、1889（明治22）年の東京美術学校入学から間もない頃とされているので^[5]、その直前までは「北心齋」の齋号で制作を行っていたと考えるのが自然だが、本作品群の中には、1887～88（明治20～21）年の年記のある作品は存在しない。また筆者の把握する限り、これまで他所においても、その2年間に制作された観山（北心齋）の作例は確認されておらず、東京美術学校の入試を控えたこの時期の観山の修練の実態は明らかにはなっていない。

また、芳崖が観山に雅邦を紹介したのは1886（明治19）年とされてきたが^[6]、本作品群中の《羅漢》（2011-JP-010～012、これら3点は一部構図に違いがあるが、同一手本による同時期の作と考えられる）には、「明治十七年八月十一日 北心齋 清書」（2011-JP-010）、「橋本先生手本写清書」（2011-JP-012、裏面）の款識がある [fig.5, 6, 7, 8]。このことは、雅邦による観山への指導が、遅くとも1884（明治17）年8月には開始していたことを示している。

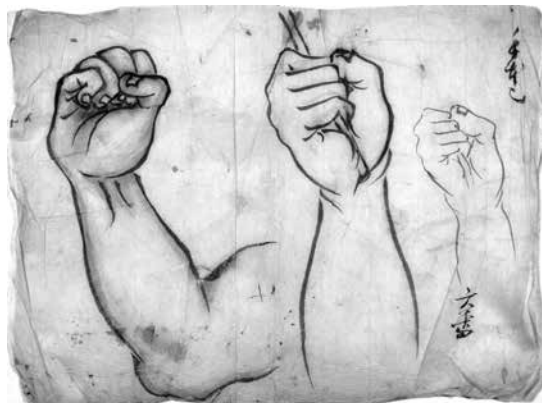


fig.3
下村北心齋（推定）《手》
1883/84（明治16/17）年頃か（2011-JP-074）



fig.4
下村北心齋（推定）《力士》
1883/84（明治16/17）年頃か
（2011-JP-079）



fig.5
下村北心齋《羅漢》
1884（明治17）年（2011-JP-010）



fig.6
下村北心齋《羅漢》1884（明治17）年（2011-JP-011）



fig.7
下村北心齋《羅漢》
1884（明治17）年頃（2011-JP-012）



fig.8
fig.7の裏面（部分）

2. 東京美術学校時代

本作品群は、在学中の「臨画」の授業の課題作品と推定される絵巻や歴史上の人物の肖像画、山水画などの模写作品のほか、当時「新按」「図按」と呼ばれた授業での、いわゆるオリジナル作品の課題と特定または推定される作品〔例：PL.6〕などから成る。

絵巻模写は糊剥がれが著しく、紙葉1枚ごとか、紙葉数枚が辛うじて繋がった状態に分離し、複数の作品が混在した状態で重ねられて伝わっていた。編成し直したところ、《北野天神縁起絵巻》（2011-JP-193）〔PL.7〕をはじめとする6件の絵巻に分別されたが、一部の作品名は不詳である。なお、これらの作品には款識がないため、画面の筆致からのみ美校在学中の観山自身の手になると推定したものだが、一方で、款識と筆致の両面から観山の手になるとは考えにくい4件の絵巻模写が確認された（《一遍上人絵詞伝 弐》断簡、《法然上

人絵伝 卷十》断簡、《信貴山縁起絵巻》「山崎長者の巻」、同「尼公の巻」断簡)。これら4件については、総覧の末尾「その他(観山作品以外)」の項に、作家不詳の模本として分類した(2011-JP-188, 192, 196, 198)。

観山が在学中に《一遍上人絵伝(藤沢道場本)》から多くの図を転用して《辻説法》(1892年、当館所蔵)[fig.9]、《日蓮上人辻説法》(1894年、東京藝術大学所蔵)を発表したことから明らかとなり、観山はやまと絵の担当教授であった巨勢小石の指導のもと、古絵巻物の学習に熱心に取り組み、その成果を意欲的に本画制作に取り入れていた。その研鑽の様子は、在学中に制作されたと考えられる、《一遍上人絵伝(藤沢道場本)》をはじめとする複数の絵巻の人物模写を切り抜いて帳面に貼り込んだ《画稿貼込帳》(神奈川県立歴史博物館所蔵)にも見ることができる。本作品群中の絵巻模写の制作(或いは模本入手)の具体的背景や時期は今のところ不明であるが、これを引き続き調査し、また画面の要素を詳細に分析することで、いずれかの本画制作との関連が明らかとなる可能性もあるものと思われる。なお、観山と同じ東京美術学校一期生の溝口宗文は、在学時を回顧する文章の中で、学長の岡倉覚三(天心)が、自身が美術部長を務める隣接の帝国博物館(現・東京国立博物館)から参考品として大量の絵巻の模本を美術学校に持ち込み、生徒はそれを自由に閲覧できた、と述べている^[7]。こうした博物館所蔵の模本をはじめとし、本作品群中の絵巻模写の「模写元」の調査を進めることが、まずは必要な作業となろう。

また、単身の歴史人物の肖像画(2011-JP-238, 243~248, 276)は、いずれも硬質で明快な線による白描画で、その画題と筆致から菊池容斎『前賢故実』(1868年刊行)との関連が考えられたが、同書の図像と照合して完全に一致したのは《壱伎真根子命》(2011-JP-276)[fig.10]のみであった。これらの一群についても引き続き模写元の調査が必要となる。

3. 日本美術院時代

本作品群は、現存する本画の画稿、或いは現在では所在不明だが文献の図版から本画が知られる作品の画稿、また、筆者の調査範囲では本画が存在したことを確認できていないものの、本画制作の準備として描かれたと思しき画稿が中心となっている。年記があるものは一部のみで、いずれも1917(大正6)年から1920(大正9)年の間に限定されるが、年記のない画稿で最も時期の早いものは、本画の制作年から類推して大正2年頃の作と考えられる《漁樵問答 画稿》(2011-JP-031)である。

また、画中に《清盛霊夢の図》と題名が記されているが署名・年記のない、小下絵と思しき素描作品(2011-JP-257)[PL.8]をここに含めた。平清盛の霊夢に老僧が表れる『平家物語』の一場面を絵画化したものであろうが、この主題に関連する観山作品はこれまで確認されていない。特有の柔らかな筆致や墨線の濃淡の様子、やまと絵への親近を感じさせる構図は、美校在学中の《日蓮上人辻説法 下図》(2011-JP-028)[fig.11]や《熊野観花 画稿》(2011-JP-029)[fig.12]にも通じることから、比較的これらと近い時期の観山の手にな



fig.9
下村観山《辻説法》1892(明治25)年(91-JP-005)



fig.10
下村観山《壱伎真根子命》
1889-93(明治22-26)年頃か(2011-JP-276)

るものと推察し、明治末頃の制作の可能性のあるものとして分類した。

さらに本作品群には、大正末期以降の作と推察される、京都と奈良の地名が記されたものを含む風景素描20点が含まれる(2011-JP-217~234, 260, 280)。うち15点には、河川や土塀や竹林越しに見える民家や寺社の瓦屋根の連なり、或いは連なる瓦屋根の形のみを抽出した部分図が描かれている[例: fig.13, 14]。同一の旅程中に何かしらの具体的な作品構想を持ち、このモチーフに特化してスケッチを行ったことが考えられるが、本画との関連は確認できていない[8]。

また1件のみであるが、2図の画稿が1枚の紙に描かれているもので、片方の図に「鞆彦」の署名があり、図そのものも安田鞆彦の筆致と推察される作品がある[fig.15]。紙面に矩形を引いて左右二つのスペースに区分し、観山と鞆彦が互いに天地が逆になるように描画している。観山の方の図は、現存する本画《酔李白》(北野美術館所蔵)の画稿とわかるため、《酔李白》の制作年である1918(大正7)年頃に描かれたものと考えられる。制作経緯は不明であるが、両者の交流を示す点で興味深い。

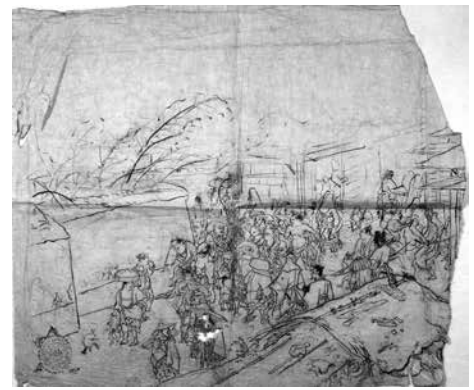


fig.11
下村観山《日蓮上人辻説法 下図》
1894(明治27)年頃(2011-JP-028)



fig.12
下村観山《熊野観花 画稿》
1894(明治27)年頃(2011-JP-029)

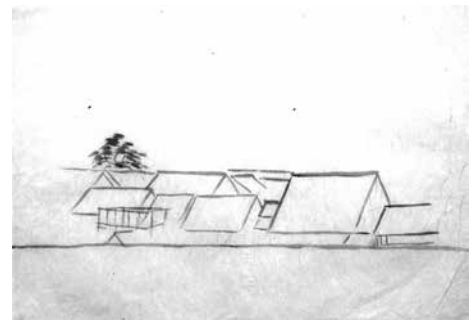


fig.13
下村観山(推定)《屋根のある風景》
1920年代半ば(大正末)か(2011-JP-232)



fig.15
[右] 下村観山《酔李白 画稿》 / [左] 安田鞆彦(推定)《唐美人 画稿(仮題)》
1918(大正7)年頃(2011-JP-186)

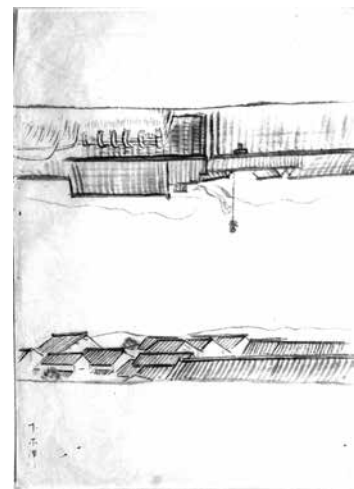


fig.14
下村観山(推定)《下木津二題》
1926(大正15)年か(2011-JP-233)

4. その他（観山作品以外）

ここでは、観山とは異なる手によるものと推定される作品群や、作品外の資料を分類した。師から与えられた手本の可能性があった作品の中には、北心斎時代或いはそれ以前のごく初歩の手習い用と思しい類型的な絵もあるが、一方で、とくに《羅漢図》(2011-JP-189) [PL.9] や《蝦蟇仙人》(2011-JP-204) [fig.16]などの描写は際立って巧みで高い完成度を示しており、作者の解明が望まれる。なお、《蝦蟇仙人》は、京都の画家・横山華山(1781/4~1837)が曾我蕭白の作に倣って描いたとされる同名作品と、細部の描写までほぼ同一であることが確認された(ただし華山作品に描かれている背景は描かれておらず、前景の仙人と蝦蟇のみが描かれる)。



fig.16
作家不詳《蝦蟇仙人》
制作年不詳(2011-JP-204)

結び

以上のとおり、本作品資料群は、未だ不分明の点も多いが、円熟期に比類のない流麗な線描に辿り着いた観山の、描画修練の過程や画稿作成の実態を知る上で重要なものと言える。

上に特記したほかでは、本作品資料群の大きな特徴に、とくに観山が得意とした道釈人物画のうち、観山がその高潔な生き方に共感を寄せ、また亡き岡倉天心の面影を投影したともされる陶淵明の図像[例: fig.17]をはじめ、人物特定が俄かにできないものも含めた古代高士像の画稿が充実していることが挙げられる[例: fig.18]。これらの画稿の比較研究によって、伝統的な画題に臨んだ観山の創意工夫のあとを辿り、探究の末に獲得された観山特有の高士像の高貴な美しさの秘訣を探ることが可能と考えられる。

隠者たちの姿を穏やかな顔貌で格調高く描いた人物画は、壮年期以降の観山の本領であり、そしてその制作は、捌き切れないほどだったとも言われる愛好者たちからの注文に支えられていた。観山作品の愛好者には、観山の最大の支援者であり理解者であった原三溪のほか、観山の創作を支援し作品を買い上げる目的で渋沢



fig.17
下村観山《帰去来 画稿》
1916(大正5)年頃(2011-JP-032)



fig.18
下村観山《高士 画稿(仮題)》
1910年代~20年代半ば(大正期)
(2011-JP-121)

栄一や高田早苗など政財界の著名人たちが発足させた「観山会」の会員などがいた（観山と愛好者らとの交際の様子は、現存する観山の画房日記にも見てとることができる^[9]）。世俗を逃れて風雅を愉しむ古代中国の隠士の姿は、近代政財界の荒波を渡る識者たちにとって憧憬の対象であり、また、そうした道釈画の鑑賞に必要な古典的教養を備えていることが、二十世紀初頭の知識人に求められる素養でもあった。観山は少年期からの研鑽によって自身が獲得した画格にふさわしい古典的テーマを自ら好むと同時に、親しく交流のあった愛好者たちのそうした好尚に応えながら、本画稿群に見られるような高士像のバリエーションを展開していったと考えられる。そして、陶淵明の像に師・天心の面影を投影したという観山が、これらの高士像に、同時代を生きる識者たちの高徳な生きざまや竹まいをも少なからず投影させていたかもしれないと想像することは、強ち的外れではないようにも思われる。これら画稿に描かれた古代の高士たちは、そう思わせるほどの強い実在感と生気を放っている。観山作品においては、そうした或る種の生々しいダイナミズムのようなものは、本画制作の過程でより静的に整えられ、時に硬直的なものとなり、削ぎ落とされてしまうきらいもある。情感のある柔らかく清らかな墨線によって、それを余すことなく伝えていることは、これらの画稿の大きな魅力である。

このように、本作品資料群は新たな観山研究の糸口を多く包含するものであることから、引き続き、本総覧で不詳或いは推定とした未解明な事項の調査を進め、向後の観山研究に資したい。

[謝辞]

成稿にあたり、2017年に逝去された入江宏氏のご冥福をお祈りするとともに、寄贈に先駆けて行った作品調査に際し、往時の宏氏と共に快くご協力下さいましたご令室様に、篤くお礼申し上げます。

（横浜美術館主任学芸員）

-
- [1] 内山淳子「下村観山の画業—新出作品資料によせて—」『生誕140年記念 下村観山展』図録（横浜美術館、2013年）pp.8-16、及び同図録「主要作品解説」p.176（no.1, 2）
- [2] ただし、無署名の紙葉の一部や、「下村」「下村晴三郎」の署名のある紙葉は、画題や筆致から東京美術学校時代に描かれたものと思われる。北心斎時代のものに合わせて後年ランダムに綴じたものであろう。
- [3] 東京国立博物館には「木挽町狩野家伝来資料」として5000件近い模本や下絵が収蔵されている。まずは同資料との照合が望まれる。
- [4] 下村英時『下村観山伝』（大日本絵画、1981年）p.30
- [5] 同 p.37, 38
- [6] 同 p.32
- [7] 「溝口翁に明治の美術界を聴く」『古美術』（1944年2月）。『日本美術院百年史』一卷下（日本美術院、1989年）に再録
- [8] うち「棚倉風景[京都]」（2011-JP-218）には、「五月九日棚倉あたり」と書かれている（棚倉は現・京都府木津川市にあった村）。観山が5月に京都に滞在していたことが明らかなのは、下村英時『下村観山伝』によれば大正15年（観山会旅行のため）と昭和4年（三千院玉座の間揮毫のため）である。さらに、観山の画房日記（当館所蔵）には、大正15年の京都行きは5月7日に出発して同月26日に帰宅、昭和4年の京都行きは4月25日に出発して5月12日に帰宅したことが記されている。
- [9] 注7にも記した観山の画房日記には、大正8年から昭和4年にかけての観山の動向が、英時や入江多平を含む観山の内弟子によって詳細に記録されている。全6冊の日記のうち2冊については、当館主席学芸員・柏木智雄により翻刻されている（柏木智雄「資料紹介：下村観山画房日記『やまの上』」『横浜美術館研究紀要第16号』2015年、同「資料紹介：下村観山画房日記『やまの上』（承前）」『横浜美術館研究紀要第17号』2016年、同「資料紹介：下村観山画房日記『日記帳』」『横浜美術館研究紀要第20号』2019年）。

入江家旧蔵 下村観山 画稿・素描等作品資料 総覧

- ・登録番号の後ろに※印のあるものは、裏打ちし、当館主催「下村観山展」(2013年) または、及び2014年度以降の当館コレクション展にて公開済み。
- ・本画が明らかかなもの画稿で、本画の図像を「観山画集」(大日本絵画、1981年)で確認できるものは、同書の掲載番号を作品備考欄に記した。また、同書には掲載がなく、他書(展覧会図録等)で本画を参照できるものについては、その書名を作品備考欄に記した。ただし、複数の図書に掲載のある場合にも、本表での記載は1冊のみとした。

■北心斎時代

分類	登録番号	作者	作品名	作品備考	制作年(和暦)	制作年(西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈/故事人物 (臨画)	JP-003	下村北心斎 (推定)	郭子儀	郭子儀と童子	明治16	1883	10歳	75.0	46.4	紙本着彩	朱書：「明治十六年九月九日精画 下村北心斎」 墨書(裏面)：「郭子儀第七」
	JP-004 ※		東方朔	梅樹に寄る東方朔	明治16	1883	10歳	69.9	34.5	紙本着彩	朱書：「明治十六年八月廿五日清画 北心斎」 墨書(裏面)：「トウボウサク 第十三番」
	JP-005		老萊子	老父母の前で戯れる老萊子 (4点同構図)	明治16	1883	10歳	51.4	35.2	紙本墨画	朱書：「明治十六年十二月九日清書」[北心斎] 筆削(朱書)：「よろしく」
	JP-006				明治16頃	1883頃	10歳頃	54.6	39.5	紙本墨画	筆削(朱書)：「妙々」(3ヶ所) [■ヨロシク]
	JP-007				明治16頃	1883頃	10歳頃	52.4	35.6	紙本墨画、朱	墨書：「北心斎写」、朱文方印(書き印)：「晴」
	JP-008				明治16頃	1883頃	10歳頃	50.6	36.3	紙本着彩	墨書：「明治十七年八月十一日 北心斎清書」
	JP-010 ※		羅漢	読経する羅漢に手を合わせ る王と武官(3点同構図。た だし、010,012は部分図)	明治17	1884	11歳	87.3	52.2	紙本墨画	墨書：「[欠] 七年 [欠] 日写 北心斎画」
	JP-011		工ヒス	しめ縄を整える恵比寿天	明治17頃	1884頃	11歳頃	73.7	77.2	紙本墨画	墨書(裏面)：「橋本先生手本写清書」
	JP-012				明治17頃	1884頃	11歳頃	68.6	50.0	紙本墨画	墨書(裏面)：「工ヒス第拾番也」
	JP-081		福神相撲(大黒、布袋)	或いは手本か。唐子の行司 を伴う図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	24.7	32.8	紙本着彩	墨書：「手本也」[十四番]
JP-082	福神相撲(外法、布袋)	或いは手本か。唐子の行司 を伴う図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	24.4	32.9	紙本墨画	墨書：「十三番」[手本也]		
JP-083	大黒	或いは手本か。頭部像	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	38.3	27.5	紙本墨画	墨書：「手本也」[一番]		
JP-084	大黒	或いは手本か。頭部像	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	31.8	24.5	紙本墨画	墨書：「手本也」[八番]		
JP-085	布袋	或いは手本か。頭部像	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	24.1	31.4	紙本墨画	墨書：「手本也」[九番]		
JP-019	高士(仮題)	梅枝を抱く高士	明治17	1884	11歳	80.1	39.5	紙本墨画	墨書：「明治十七年九月十四日 清書 北心斎画」		
JP-020	下山釈迦	同構図	明治17	1884	11歳	78.5	39.3	紙本墨画	墨書：「明治十七年九月十四日清書」		
JP-092	下山釈迦	同構図	明治17頃	1884頃	11歳頃	79.8	39.4	紙本墨画			
JP-021 ※	許由	潁水で耳を洗う許由	明治17	1884	11歳	82.2	44.1	紙本墨画	墨書：「明治十七年九月十五日写 北心斎画」		
JP-022 ※	長恨歌抜写三枚之内	6名の乗人	明治17	1884	11歳	57.5	74.0	紙本墨画	墨書：「長恨歌抜写三枚ノ内 主青山 明治十七年十一月三日写 北心斎画」		
JP-071	高士観面	掛幅を眺む高士と6人の人物	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	48.4	94.4	紙本墨画			
JP-072	毘沙門天	宝塔を持ち邪鬼を踏む毘沙 門天	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	94.8	48.4	紙本墨画			
JP-098	西王母	西王母と桃を携えた侍女	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	55.0	39.8	紙本着彩	墨書(裏面)：「東信當筆 [?]		
JP-250	玄宗皇帝楊貴妃並笛図	玄宗皇帝楊貴妃並笛図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	65.0	37.6	紙本墨画			

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈/故事人物 (臨画か)	JP-251	下村北心斎 (推定)	玄宗帝楊貴妃並笛図	手折った海棠を見つめる楊貴妃 白布に乗り空中を移動する武士	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	77.5	38.0	紙本墨画淡彩	
	JP-278		楊貴妃		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	52.0	53.6	紙本墨画	
	JP-286		武士仙人		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	91.7	55.6	紙本着彩	
道釈/故事人物	JP-014 ※	下村北心斎	十六羅漢 第一尊者 費頭羅跋羅憍憍	第一尊者の単身像 (2点同構図)	明治17	1884	11歳	92.9	38.7	紙本着彩	墨書：[明治十七年八月廿三日北心斎画]鉛筆 [?]：[第一費頭羅跋羅憍憍尊者]
	JP-015			明治17	1884	11歳	87.0	37.8	紙本墨画	墨書：[明治十七年八月二十四日清書]インク (裏面)：[鶴山筆] (後補か)	
	JP-016		十六羅漢 第二尊者 迦諾迦跋蹉	第二尊者の単身像	明治17	1884	11歳	91.9	37.6	紙本着彩	鉛筆 [?]：[第二迦諾跋蹉]墨書：[明治十七年八月二十九日写 北心斎画]
	JP-017 ※		十六羅漢 第三尊者 迦諾 [迦] 跋羅憍憍	第三尊者の単身像	明治17	1884	11歳	91.5	39.1	紙本着彩	墨書：[明治十七年九月十七日写]「北心斎画」[第三迦諾 [迦] 跋羅憍憍一]
	JP-018		十六羅漢 第五尊者 諸距離	第五尊者の単身像	明治17	1884	11歳	89.4	37.7	紙本墨画	墨書：[欠] 十七年 [欠] 月二十九日写 北心斎画 第五諸距離一]
	JP-024 ※		騎虎鍾馗 画稿	当館所蔵のほぼ同構図の本画 [88-JP-037] に「明治十七年七月十五日写 北心斎画」の款識がある	明治17頃	1884頃	10/11歳頃	67.0	58.0	紙本墨画	
	JP-272		竹林七賢図		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	39.4	95.0	紙本墨画	背景色の指示書きあり (「青」「金」)
	JP-023		唐子遊		明治17	1884	10/11歳	77.1	36.4	紙本墨画	墨書：[明治十七年 北心斎画]
	JP-025		戯画 (仮題)	平安装束の単身女性像。下部欠損	明治18	1885	12歳	58.5	63.8	紙本墨画	墨書：[直■戯写]、朱文方印 (書き印)：[■] [■]
	その他人物 (臨画か)		JP-275	下村北心斎 (推定)	唐子 (仮題)	太鼓を叩く唐子と舞う唐子	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	26.2	35.2
JP-288		古代人物二人 (仮題)	祈る男性と警策を持つ男性の半身像		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	26.0	35.0	紙本墨画	
JP-073		下村北心斎 (推定)	手	或いは手本か。開いた手先2図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	27.1	38.1	紙本墨画	墨書：[手本也 二番]
JP-074			手	或いは手本か。拳を握った腕 3図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	26.8	33.5	紙本墨画	墨書：[手本也] [六番]
JP-075			手	或いは手本か。魚を押さえる両手	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	26.8	36.6	紙本墨画	墨書：[手本也 七番]
JP-076			手	或いは手本か。握った手先3図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	24.8	32.7	紙本墨画	墨書：[手本也] [十一番]
JP-077			足	或いは手本か。曲げた脛1図 (079の右足に近似)	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	38.4	27.2	紙本墨画	

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
人体習画 (臨画)	JP-078	下村北心斎 (推定)	足	或いは手本か。伸ばした脛 1図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	38.1	27.5	紙本墨画	墨書：「手本也」〔三番〕
	JP-079		力士	或いは手本か。単身の力士	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	32.1	23.9	紙本墨画	墨書：「手本也」〔十番〕
	JP-080		力士	或いは手本か。単身の力士	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	37.7	26.9	紙本墨画	墨書：「手本也」〔五番〕
四君子 (臨画)	JP-009-01 (表)	下村北心斎	墨竹図		明治17/18	1884/85	11歳	32.6	24.3	紙本墨画	墨書：「十一才乃時画、〔神田区猿楽町四番地〕」
	JP-009-01 (裏)		白明春蘭		明治17/18か	1884/85か	11歳か	24.3	32.6	紙本墨画	墨書：「白明春蘭」〔十二番〕
	JP-086		墨竹図	裏面にも墨竹図有り（款識 なし）	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	34.6	24.3	紙本墨画	墨書：「六番」〔北心斎〕
	JP-087		墨竹図		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	32.7	24.0	紙本墨画	墨書：「十一番」
	JP-088		墨竹図		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	32.6	24.3	紙本墨画	墨書：「九番」
	JP-089		蘭	裏面は梅図と習字練習の反 故紙	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	32.4	24.2	紙本墨画	墨書：「十三番」
	JP-090		梅	裏面にも梅図有り（款識な し）	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	32.0	24.3	紙本墨画	墨書：「十五番」〔北心斎写〕□〔白四角〕
	JP-242		梅		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	24.0	31.7	紙本墨画	
	JP-096		楼閣山水		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	63.4	46.8	紙本墨画	墨書：「一」
山水 (臨画)	JP-283	下村北心斎 (推定)	松のある風景	橋のたもとの松樹と橋を渡 る人物。裏面には同図の白 描あり	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	92.5	32.6	紙本墨画	墨書（裏面）：「第七六号」
	JP-256		溪流図		明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	20.7	19.9	紙本墨画	
山水 (臨画か)	JP-266		奇岩風景	奇岩のクローズアップ図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	32.7	46.7	紙本墨画	
	JP-285		奇岩風景	奇岩のクローズアップ図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	47.8	33.6	紙本墨画	
	JP-292	下村北心斎 (推定)	奇峰図	奇峰の頂上のクローズアッ プ図	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	38.8	27.8	紙本墨画	
	JP-268		枯立木のある風景	裏面に鷹の図と、鷹の描か れた扇面の縮図あり	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	133.2	31.4	紙本墨画	
	JP-284		山水	崖上の松樹	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	27.4	38.3	紙本墨画	
動物	JP-287		山水	崖上の松樹	明治16/17頃か	1883/84頃か	10/11歳頃か	39.5	27.7	紙本墨画	
	JP-013		三猿	猿の諸態。全身図と部分図	明治17年	1884年	11歳	26.2	34.4	紙本墨画	墨書：「明治十七年八月二十日 北心斎画」
	JP-026 ※	下村北心斎	鷹図	羽を広げる一羽の鷹。永青 文庫所蔵《鷹之図》（明治 19年作）のための習作か	明治19	1886	13歳	39.4	55.4	紙本墨画	墨書（裏面）：「明治十九年十一月廿九日 北心斎画」
	JP-027 ※		鷹図		明治19	1886	13歳	32.2	47.3	紙本墨画	墨書（裏面）：「明治十九年〔十一月〕抜 けか」廿八日 北心斎画」

分類	登録番号	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
動植物写生ほか	2011-	下村北心斎	写生仮綴帳 (全50図)	薄美濃紙に描かれた植物、昆虫の写生を主とする素描を綴じたもの(各紙サイズは不揃い)	明治16-26頃か	1883-1893頃か	10-20歳頃か	24.7ほか	35.0ほか	紙本着彩、紙本墨画、ペン、鉛筆	第29図に鉛筆：「下村晴三郎」
	第30図に墨書：「下村晴三郎」										
	JP-07001~50										第31図に墨書：「下村」
											第36図、41図、49図に墨書：「九月十九日画」
											第46図に鉛筆書き：「下村晴三郎」
											第47図に墨書：「北心斎」「おころ」【「オロキ」、方印(書き印)：「晴」
											第48図に墨書【「月十九日画」
											第49図に墨書【「九月十九日画」

■東京美術学校時代

分類	登録番号	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど		
絵巻 (臨画)	2011-	下村観山 (推定)	模写「北野天神縁起絵巻」		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	35.0	803.8	紙本着彩	墨書：「一条院の御宅に位階を送られし処」		
	「北野宮へ待賢門院の■■■■無実の罪にて■■■■の所」「うせしきぬを女房が■■■■る所」「或女房世尊寺の阿闍梨に俊を譲しけるにに俊■■■■籠りたれば■■女房言ひける所」「仁和寺の阿闍梨■■■■所を車にて通りしに牛くるひし所」ほか												
	JP-193											色の指示書きあり	
	JP-194			模写 合戦絵巻断簡(仮題)	騎馬合戦図(貼り合わされた最後の一葉は場面が連続しない)。画面右寄りの大雑刀で戦う武者の描写は、《春日権現修験絵》(巻二)の栗駒山合戦の場面の引用。一部の人物は東京国立博物館所蔵《修羅道絵巻》(明治33年作)に転用	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	34.1	167.0	紙本着彩		
	JP-195-01			模写 物語絵巻断簡(仮題)	巻狩の図(曾我物語か?)。場面は02と03のみ連続	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	39.0	109.2			
	JP-195-02		38.4							54.6			
	JP-195-03		38.3							54.6			
	JP-195-04		39.6							133.2			
	JP-195-05		38.1							26.1			
	JP-197-01		38.0							81.0			
	JP-197-02		38.0							35.7			
	JP-197-03		38.0							108.0			
	JP-197-04		38.0	81									
JP-197-05	38.0	46.6											
JP-197-06	38.0	87.8											
JP-197-07	38.0	81.0											
JP-197-08	38.0	81.0											

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
絵巻 (臨画)	JP-198-01	下村観山 (推定)	模写 物語絵巻断簡 (仮題)	御簾外にて語らう公卿の図	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	45.7	139.0	紙本着彩	
	JP-264		源氏物語 柏木三	菩薩1図と神将5図が縦に配される。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	31.1	40.2	紙本着彩	
	JP-202		仏画模写 (仮題)		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	314.8	27.9	紙本着彩	
	JP-238		日本武尊 (仮題)	古代装束で髪を美豆良に結い、弓と剣を携えた青年。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	75.6	27.1	紙本着彩	墨書：「髪を結ぶ」【髪ツツ】
	JP-243		和気清麻呂 (仮題)	警察を持つ古代貴人。画中に襟に装身具の部分図あり。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	38.5	27.1	紙本着彩	
	JP-244		直垂装束 (仮題)	直垂装束の武人。画中に襟元、扇の部分図あり。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	38.3	27.5	紙本着彩	墨書：「直垂」、(扇の図に「此の巾広し」の通のより此■長し)
道釈/故事人物 (臨画)	JP-245	下村観山 (推定)	武内宿禰 (仮題)	「前賢故美」(1868)所載「武内宿禰」に近似。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	34.1	24.4	紙本着彩	
	JP-246		聖徳太子	画中に装身具の拡大図あり。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	38.4	27.2	紙本着彩	
	JP-247		武人 (仮題)	矢籠を持つ。鎧姿の武人。画中に鎧先の部分図あり。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	32.7	24.4	紙本着彩	墨書：「矢籠の図中に」【皆】「音なり」
	JP-248		武人 (仮題)	鎧を持つ。鎧姿の武人。画中に鎧先の部分図あり。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	38.4	27.0	紙本着彩	
	JP-258		蜀僧法常 (牧谿) 筆 観音図 模写	牧谿《観音遠縁図》(三幅対)の観音頭部の模写	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	38.3	26.8	紙本着彩	墨書：「蜀僧法常筆」【観音】
	JP-276		菅伎真根子命	『前賢故美』(1868)所載「菅伎真根子命」と一致。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.1	38.2	紙本着彩	
道釈/故事人物 (臨画か)	JP-097	下村観山 (推定)	林和靖	二人の童子と鶴といる林和靖 (画面右上4分の1欠損)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	76.7	62.5	紙本着彩	
	JP-289		円窓画 娼妓奔月	手杵で仙槎をつく兎と娼妓	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	63.8	60.2	紙本着彩	
道釈/故事人物	JP-093	下村観山 (推定)	右樞天神	天台座主・尊意と、口から炎を吐く菅原道真の亡霊。裏面に豹の図あり	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	101.0	54.6	紙本着彩	墨書 (裏面)：「新案 下村第四号」 朱書 (裏面)：「鶴牛の形のモノグラム」
	JP-277		高士 (仮題)	従者に添われ書机に向かう屋内の高士	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	51.6	88.1	紙本着彩	墨書 (裏面)：「観山筆」
その他人物 (臨画)	JP-294	下村観山 (推定)	人物模写 (仮題)	狩衣姿で座する男性、橋のたもとの尼僧など、絵巻からの抜き描きか	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.9	39.4	紙本着彩	墨書：「貞観十二年ノ御篇」 色の指示書きあり
その他人物 (臨画か)	JP-182	下村観山	市井風俗図 画稿 (仮題)	絵巻の一場面か (犬を連れて走る子供、壁に落書きをする子供を叱る男性)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.6	39.9	紙本着彩	

分類	登録番号	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど		
その他人物 (顔画か)	JP-187	下村観山 (推定)	市井風俗図集 (仮題)	絵巻の一場面か(雄鶏を籠で運ぶ男性など)往来の人物)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	26.6	38.1	紙本墨画	色の指示書きあり		
	JP-203		母子図「苦悩の母」(仮題)	赤子を抱く母親の西洋画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	82.7	60.3	紙本着彩	墨書：「Distress the mother」		
	JP-262		唐子と楽器	唐子の描写が近似	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	39.0	80.6	紙本墨画			
	JP-271		唐子と奇岩	唐子の描写が近似	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	39.5	89.6	紙本墨画			
	JP-281		人物二人 (仮題)	烏帽子をつけた男性と冠をつけた男性が座して向き合う図。白描画	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.1	38.3	紙本墨画			
その他人物	JP-091	下村観山	尊師図 (仮題)	高座に座す僧侶	明治22-26頃	1889-1893頃	16-20歳頃	70.3	53.6	紙本墨画	墨書：「下村晴三郎」 墨書 (裏面)：「画図案」[月謝 小林]		
	JP-095		人物二人 (折檻する図) (仮題)	横縞の幔幕を背景に、扇を手に相手を折檻する狩衣姿の男性	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	36.1	62.1	紙本着彩、 胡粉			
	JP-199-01		僧侶を主とする肖像集	僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き35図	台紙に貼り込まれた、僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き35図				31.9	82.0	紙本墨画 (一部着彩)	一部の図に墨書：「若狭小浜 高成寺」[常楽寺 歿宗和尚寿像]「豫州新居浜 真光寺」ほか	
	JP-199-02				僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き19枚 (糊剥がれによりいずれかの台紙から剥離したものと推定)				25.0ほか	15.7ほか	紙本墨画 (一部着彩)	うち一図に墨書：「蓮如上人」	
	JP-199-03				僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き66図				32.0	216.0	紙本墨画 (一部着彩)	一部の図に墨書：「六十才」「上」ほか 色の指示書きあり (黄色)「アサキ」	
	JP-199-04		僧侶を主とする肖像集	僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き16図	台紙に貼り込まれた、僧侶の頭像の切抜き16図				32.0	43.5	紙本墨画	一部の図に墨書：「南」「年六十一才」ほか	
	JP-199-05				台紙に貼り込まれた僧侶の頭像の切抜き33図と、僧侶の頭像の切抜き4枚 (単片は糊剥がれによりいずれかの台紙から剥離したものと推定)				32.0	86.3ほか	紙本墨画 (一部着彩)	一部の図に墨書：「肥前高原玉峰寺雪岩和尚」「宝福寺 隠居 六十才」「七十三」「海」「洞長寿」ほか	
	その他人物		JP-201-01	僧侶を主とする肖像集	僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き21図	台紙に貼り込まれた、僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き21図				31.7	67.0	紙本墨画 (一部着彩)	
			JP-201-02			僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き19図 (糊剥がれによりいずれかの台紙から剥離したものと推定)				30.0	27.0ほか	紙本墨画	うち一図に墨書：「■衣質■■■地■■■」 「五十二才 ■■堂」
			JP-201-03			台紙に貼り込まれた僧侶の頭像の切抜き17図と、僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き8枚 (単片は糊剥がれによりいずれかの台紙から剥離したものと推定)				31.5	71.0ほか	紙本墨画 (一部着彩)	

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
その他人物	JP-201-04	下村観山 (推定)	僧侶を主とする肖像集	台紙に貼り込まれた、僧侶の頭像を主とする肖像の切抜き23図	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	31.5	42.0	紙本墨画 (一部着彩)	うち一図に墨書：「海」
	JP-201-05			台紙に貼り込まれた、僧侶の頭像の切抜き33図と三鈷を持つ手1図。僧侶の頭像の切抜き単片2図(単片は剝削がれによりいづれかの台紙から剥離したものと推定)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	32.0	57.0ほか	紙本墨画 (一部着彩)	うち一図に墨書：「源」 「三」
	JP-240	大宮人 (仮題)	公卿の座像。装束のみ着彩	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.5	20.1	紙本着彩		
	JP-249	扇面稿 筍を持つ樵夫 (仮題)	竹林で竝と筍を持つ樵夫	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.9	38.5	紙本着彩		
	JP-263	三井法明乃像	三井寺・法明院の住持・桜井敬徳 (1834-1889) の肖像か	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	46.5	31.0	紙本墨画	墨書：「三井寺法明乃像 ■■■」 色の指示書きあり	
	JP-269	狸々舞	狸々舞を舞う童子。裏面に羅漢の面稿(墨画)あり	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	73.4	27.5	紙本着彩		
	JP-183	狩野探幽画 楼閣山水模写		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	95.0	49.4	紙本着彩	墨書：「探幽斎筆 写観山之」	
	JP-184	狩野探幽画 楼閣山水模写		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	71.0	49.2	紙本着彩	墨書：「探幽斎筆 写」	
	JP-185	狩野尚信画 楼閣山水模写		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	78.9	49.3	紙本着彩	墨書：「尚信筆 観山写之」	
	JP-255	湖畔二題		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	27.3	51.5	紙本墨画		
JP-265	柳のある風景	水面の中州に揺れる柳	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	39.6	17.4	紙本墨画			
JP-273	山水人物図		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	80.9	39.1	紙本着彩			
JP-282	松	裏面に鬼、樹木、人物など複数の図あり	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	59.3	27.3	紙本墨画			
JP-291	松	松樹(部分、先端)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	38.3	27.5	紙本墨画			
JP-293	松枝	松枝のクローズアップ図。右下余白に、装飾品(部分)の白描画あり(262、271にも共通)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	39.3	27.5	紙本墨画			
JP-296	楼閣山水		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	77.6	47.2	紙本墨画			
JP-297	山水断簡		明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	24.7	51.6	紙本墨画			
JP-028 ※		日蓮上人辻説法 下図	東京藝術大学所蔵《日蓮上人辻説法》(明治27年4月東京美術学校校友会展出品)の下図 【本画：『観山画集』no.19】	明治27頃	1894頃	20歳頃	53.2	63.0	紙本墨画		
JP-029 ※		熊野観花 面稿	東京藝術大学所蔵《熊野観花》(明治27年4月美校授業成績物展覧会出品)の面稿(未定稿) 【本画：『観山画集』no.22】	明治27頃	1894頃	20歳頃	25.9	44.7	紙本墨画		

分類	登録番号	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
その他	JP-259	下村観山 (推定)	牛車	牛に引かれる牛車の部分図	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	144.7	90.0	紙本墨画	
	JP-295-01 ~05		画像貼込帳 (全5葉)	薄美濃紙に描かれた雄鶏、鶴、唐子、神仙、古代人物などの素描を綴じたもの(各紙サイズは不揃い)	明治22-26頃か	1889-1893頃か	16-20歳頃か	22.5ほか	18.5ほか	紙本墨画	

■日本美術院時代

分類	登録番号	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど	
物語/説話	JP-257	下村観山 (推定)	清盛霊夢の図 小下絵	眠る平清盛と霊夢に現れた老僧の図	明治末か	1900-1910頃か	20代後半-30代か	24.4	32.4	紙本墨画	墨書：「清盛霊夢 (ルビ：きよもりれいむ) の圖 (ルビ：づ)」]、楕円印 (書き印)：■ ■ [素心?]	
	JP-030 ※		魔障図 画稿	東京国立博物館所蔵《魔障図》(明治43年作)の画稿(部分) 【本画：『観山画集』no.48】	明治43頃	1910頃	36/37歳頃	64.6	74.5	紙本墨画		
	JP-039 ※		江口 (江口之君) 画稿	《江口 (江口之君)》(大正6年作)の右幅画稿 【本画：『観山画集』no.211】	大正6頃	1917頃	43/44歳頃	55.5	31.2	紙本墨画		
	JP-060		秘曲 画稿	《秘曲》(大正8年作)の左幅画稿(部分、琵琶を引く手) 【本画：『観山画集』no.225】	大正8頃	1919頃	45/46歳頃	27.4	38.9	紙本墨画		
	JP-101 ※		下村観山	弱法師 (俊徳丸) 画稿	西方浄土を拜む俊徳丸(102は全身図、101はその上半身拡大図)。日本美術院所蔵《俊徳丸》(『観山画集』no.77)は大正11年作につき、同時期と推定	大正11頃か	1922頃か	48/49歳頃か	28.9	24.2	紙本墨画	
	JP-102 ※			高砂 (姥) 画稿	二階堂美術館所蔵《高砂》(大正12年頃作)の姥(左幅)と翁(右幅)の描写に近似	大正11頃か	1922頃か	48/49歳頃か	71.3	39.4	紙本墨画	
	JP-128		高砂 (姥) 画稿	二階堂美術館所蔵《高砂》(大正12年頃作)の姥(左幅)と翁(右幅)の描写に近似	大正12頃	1923頃	49/50歳頃	33.2	24.3	紙本墨画		
	JP-129		高砂 (姥) 画稿	二階堂美術館所蔵《高砂》(大正12年頃作)の姥(左幅)と翁(右幅)の描写に近似	大正12頃	1923頃	49/50歳頃	39.0	27.3	紙本墨画		
	JP-175		高砂 (翁) 画稿	二階堂美術館所蔵《高砂》(大正12年頃作)の姥(左幅)と翁(右幅)の描写に近似	大正12頃	1923頃	49/50歳頃	38.2	27.4	紙本墨画		
	JP-031 ※		下村観山	漁樵問答 画稿	《漁樵問答》(大正2年作)の画稿(部分、立ち姿の樵) 【本画：『観山画集』no.171】	大正2頃	1913頃	39/40歳頃	36.4	26.2	紙本墨画	
JP-100 ※	漁樵問答 画稿	丸木に腰掛ける樵(表情と装束は031の樵に近似)		大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.5	27.4	紙本着彩			
道釈/故事人物	JP-116	下村観山	月下弾琴 画稿	《月下弾琴》(大正4年頃作)の画稿(部分、竹林に座して琴を弾く王維) 【本画：『下村観山展—観山と三溪』展図録(財団法人三溪園保勝会、2006年)no.14】	大正4頃	1915頃	41/42歳頃	47.7	61.1	紙本墨画		

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈/故事人物	JP-032		帰去来 画稿	《帰去来》(大正5年作、『観山画集』no.12)の陶淵明の描写に近似	大正5頃	1916頃	42/43歳頃	40.2	28.2	紙本墨画	
	JP-034		丹霞 画稿	《丹霞》(大正5年作、『観山画集』no.199)に近似	大正5頃	1916頃	42/43歳頃	40.1	28.2	紙本墨画	
	JP-035		丹霞 画稿	(034下半身、035上半身)	大正5頃	1916頃	42/43歳頃	40.0	28.0	紙本墨画	
	JP-173		丹霞 画稿	《丹霞》(昭和3年作、『観山画集』no.282)に近似	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	79.0	55.3	紙本墨画	
	JP-036	維摩 画稿 (仮題)	頭部像。頭に巻いた袈裟と豊かな髭の描写は、同年作の《維摩》(『観山画集』no.209)に通ずる。顔貌は神奈川県立近代美術館所蔵《維摩の顔 画稿》(明治44年作)に近似	大正6	1917	44歳	38.7	27.3	紙本墨画、朱	墨書：「大正六年十一月廿三日作」	
	JP-120	維摩 画稿	頭部像。神奈川県立近代美術館所蔵《維摩の顔 画稿》(明治44年作)に近似	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.0	27.3	紙本着彩		
	JP-134	維摩 画稿	二指を示し「不二法門」を説く維摩	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.9	27.3	紙本墨画		
	JP-146	維摩 画稿	樹上から眼下を見下ろす老僧。福井県立美術館所蔵《樹上人物(画稿)》、真鶴町所蔵《鳥窠上人》に近似	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	105.7	54.9	紙本墨画		
	JP-037	鳥窠禅師 画稿	樹上から眼下を見下ろす老僧。福井県立美術館所蔵《樹上人物(画稿)》、真鶴町所蔵《鳥窠上人》に近似	大正6	1917	44歳	44歳	38.9	27.2	紙本墨画	墨書：「6.12.3」
	JP-118	鳥窠禅師 画稿	040は半身像、090はその頭部像。顔貌は141に近似	大正6頃か	1917頃か	43/44歳頃	43/44歳頃	53.2	55.4	紙本墨画	
	JP-040	老子 画稿	《老子》(大正12年頃)の頭部画稿。 【本画：『観山画集』no.244】	大正7	1918	44歳	44歳	110.3	71.9	紙本墨画	墨書：「大正七年三月廿八日」[老子]
	JP-099	老子 画稿	筆を手に笑う仙人(寒山か?)	大正7頃	1918頃	44/45歳頃	44/45歳頃	38.7	27.1	紙本着彩	
	JP-041	仙人 画稿 (仮題)	《郭子儀》(大正7年作)の右幅画稿 【本画：『観山画集』no.221】	大正7	1918頃	44/45歳頃	44/45歳頃	32.9	24.4	紙本墨画	墨書：「7.7.25」
	JP-043	郭子儀 画稿	部分図(柄香炉を持つ太子の手)	大正7頃	1918頃	44/45歳頃	44/45歳頃	116.8	55.3	紙本墨画	
	JP-046	聖徳太子孝養像 画稿	部分図(髪を美豆羅に結った頭部)	大正8	1919	45歳	45歳	28.2	40.2	紙本墨画	墨書：「8.1.12」
JP-047	聖徳太子孝養像 画稿	水野美術館所蔵《高士》(大正9年作)の左幅画稿(童子洗頭の図)	大正8	1919	45歳	45歳	40.1	28.2	紙本墨画	墨書：「8.1.12」	
JP-050	洗硯図 画稿		大正8	1919	45歳	45歳	40.0	28.1	紙本墨画	墨書「8.4.6」	

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈／故事人物	JP-053		帰去来 (無絃琴を持つ童子) 画稿	《帰去来》(大正5年作、『観山画集』no.12)に、無絃琴を持つ童子と跳ねる犬の描写あり。線作の画稿か	大正8	1919	46歳	39.2	27.4	紙本墨画	墨書：「八、五、七」[帰去来]
	JP-054		帰去来 (犬) 画稿					27.3	39.1		
	JP-055		東坡先生 画稿	《東坡先生》(大正8年作)の右隻画稿(部分、僧の横顔)【本画：『観山画集』no.214】	大正8	1919	46歳	38.2	27.2	紙本墨画	墨書：「8.7.16」
	JP-056		麻姑仙 画稿	鹿を伴う麻姑仙女	大正8	1919	46歳	103.7	45.5	紙本淡彩	墨書：「麻姑仙」[乾氏]「8.6.25」
	JP-057		高士 画稿 (仮題)	早稲田大学會津八一記念博物館 (富岡重憲コレクション) 所蔵《高士図》(大正10年代作)の高士の顔貌に近似	大正8	1919	46歳	39.1	27.4	紙本墨画	墨書：「8.10.12 大成覚」[?]】
	JP-145		孔子 画稿	水野美術館所蔵《日・孔子・月》(制作年不詳)の中幅の画稿(部分、手のみ)	大正8か	1919か	45/46歳か	27.2	38.9	紙本墨画	墨書：「観山」[孔子]「伊東源四郎」[八.]
	JP-064		高士 画稿 (仮題)	高山冠を被った高士の横顔	大正9	1920	46歳	38.7	27.3	紙本墨画	墨書：「九、一、二五」
	JP-065		寿老 画稿	山種美術館所蔵《寿老》(大正9年作)の画稿(部分、寿老の手と鹿の頭部)【本画：『観山画集』no.68】	大正9	1920	46歳	27.3	39.0	紙本墨画	墨書：「九、二月三日」
	JP-069 ※		漁樵問答 画稿	《漁樵問答》(大正9年作)の画稿(069は右幅の橋上の樵と驢馬、130は左幅の竿を持つ漁夫)【本画：『観山画集』no.230】	大正9頃	1920頃	46/47歳頃	28.2	40.0	紙本墨画	
	JP-130 ※						40.0	28.1			
	JP-119		高士 (陶淵明) 画稿	水野美術館所蔵《高士》(大正9年作)の右幅画稿(部分、松の幹に座す陶淵明)	大正9頃	1920頃	46/47歳頃	38.9	27.3	紙本墨画	
JP-148		舟子 画稿	五島美術館所蔵《舟子》(大正9年頃作)の左幅画稿(部分)【本画：当館「下村観山展」展図録no.99】	大正9頃	1920頃	46/47歳頃	40.1	28.2	紙本墨画		
JP-107		運磨 画稿	座禅する横向き運磨大師	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	27.2	38.7	紙本墨画		
JP-124		運磨 画稿	目を剥いた運磨大師の頭部	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.9	28.1	紙本墨画		
JP-108		高士騎驢 画稿	福井県立美術館所蔵《高士騎驢 画稿》(大正期作)とほぼ同図	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	85.7	46.3	紙本墨画		
JP-110		布袋 画稿 (仮題)	大袋に座して笑う布袋	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	53.3	38.7	紙本墨画		

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈／故事人物	JP-111	下村観山	布袋 画稿 (仮題)	肩に大袋を背負う布袋	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	53.2	38.8	紙本墨画	
	JP-115		指月布袋 画稿 (仮題)	僧の半身、人差し指を立てる左手、地を指す右手の三図が描かれる	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	23.1	55.3	紙本墨画	墨書：「観山、精円印（書き印）：「素心」[?]
	JP-155		布袋あるいは俱胝堅指 画稿	《布袋図》(大正10年作、『観山画集』no.235)との近似。ほか、神奈川県立歴史博物館所蔵、佐野市立吉澤記念美術館所蔵、新井旅館所蔵の各《布袋図》、また《俱胝堅指》(大正13年頃作、当館「下村観山展」図録no.119)とも近似	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	38.8	27.2	紙本墨画	
	JP-164		布袋あるいは俱胝堅指 画稿	所蔵の各《布袋図》、また《俱胝堅指》(大正13年頃作、当館「下村観山展」図録no.119)とも近似	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	40.0	28.0	紙本墨画	
	JP-176		布袋の手 画稿	画中に布袋座像の縮図あり	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	27.3	38.8	紙本墨画	
	JP-117		寿星(寿老人) 画稿 (仮題)	半身像。頭部や顔貌の描写は、福井県立美術館所蔵《寿星》(大正5年頃作)、山種美術館所蔵《寿老》(大正9年作、『観山画集』no.68)、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵《瑞彩 寿星》(大正13年作)に通ずるが、髭がないため異主題か	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	131.0	55.0	紙本墨画	
	JP-127		寿星(寿老人) 画稿 (仮題)	頭部像。白眉と白髭の描写は、福井県立美術館所蔵《寿星》(大正5年頃作)、山種美術館所蔵《寿老》(大正9年作、『観山画集』no.68)、宮内庁三の丸尚蔵館所蔵《瑞彩 寿星》(大正13年作)に通ずる	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	39	27.2	紙本着彩	
	JP-121		高士 画稿 (仮題)	頭巾を被った高士の頭部	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	38.7	27.2	紙本墨画	
	JP-122		高士 画稿 (仮題)	頭巾を被った高士の頭部	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	38.7	27.3	紙本墨画	
	JP-123		高士 画稿 (仮題)	幞頭を冠した高士の頭部	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	39.0	27.3	紙本着彩	
	JP-125		高士 画稿 (仮題)	杖をつき腰をかける、幞頭を冠した老高士	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	33.2	24.4	紙本墨画	
	JP-126		高士 画稿 (仮題)	頭巾を被った高士の頭部	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	38.7	27.1	紙本墨画	
JP-132	高士 画稿 (仮題)	幞頭を冠し、頸髭を風に靡かせる高士の頭部	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	38.7	27.2	紙本墨画			

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈／故事人物	JP-137	下村観山	高士 画稿 (仮題)	幞頭を冠した高士の横向き半身像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.1	27.3	紙本墨画	
	JP-138		高士 画稿 (仮題)	高山冠を被った高士の横顔	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.9	27.2	紙本墨画	
	JP-139		高士 画稿 (仮題)	頭に淄撮を付けた、笑みを浮かべる高士の胸像。或いは神仙か	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.8	27.3	紙本墨画	
	JP-149		高士 画稿 (仮題)	頭に淄撮を付けた老高士の横顔	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.7	26.9	紙本墨画	
	JP-153		高士 画稿 (仮題)	頭に淄撮を付けた高士の横顔	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	34.3	24.9	紙本墨画	
	JP-157		高士 画稿 (仮題)	鞭を持つ、幞頭を冠した高士の全身像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	67.9	46.5	紙本墨画	
	JP-169		高士 画稿 (仮題)	頭に淄撮を付けた[?]高士の横顔	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.9	27.2	紙本墨画、朱	
	JP-174		高士 画稿 (仮題)	外套を身に着け、机に向かい座す高士	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.3	27.3	紙本墨画、朱	
	JP-140		白衣観音 画稿	三溪園所蔵《岩座觀世音菩薩》(大正15年頃作)との近似	大正15頃か	1926頃か	52/53歳頃か	39.7	28.2	紙本墨画	
	JP-150		白衣観音 画稿	座する白衣観音	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	40.5	31.2	紙本墨画	
	JP-151		白衣観音 画稿	立膝の白衣観音	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	101.4	45.3	紙本墨画	
	JP-143		老菜子 画稿 (仮題)	袖の長い着物を着て舞う老菜子か	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.0	27.3	紙本墨画	
	JP-144		南泉和尚 画稿 (仮題)	老僧の横顔。駿府博物館所蔵《南泉和尚》(大正3年作、[観山画集] no.55)の南泉に近似。顔貌の描写は《東坡先生》(大正8年作)右隻の老僧にも通ずる	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.7	27.3	紙本墨画	
	JP-160		南泉和尚 画稿 (仮題)	猫を掲げて切り落とそうとする南泉の全身像。駿府博物館所蔵の異構図の同主題作 (制作年不詳)あり	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	28.2	40.0	紙本着彩	
	JP-170		南泉斬猫 画稿	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	84.0	46.5	紙本墨画		
JP-154	稚児文殊 画稿	重形文殊の単独像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.0	27.3	紙本墨画			
JP-159	仏説法図 画稿	台座に座し、下げた左手に來迎印を結んだ横向きのおの図	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	74.5	35.0	紙本墨画			

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
道釈/故事人物	JP-161	下村観山	張果老 画稿 (仮題)	笑みを浮かべ、頭に漁撮を付けた男性の横顔。石川県立七尾美術館所蔵《張果老図》(昭和3年作、「観山画集」no.278)の顔貌に近似	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	27.6	19.8	紙本墨画	
	JP-165		酔李白 画稿 (仮題)	酒器を両手に持ち、童子に支えられて歩く高士	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	48.3	32.4	紙本墨画、 胡粉	
	JP-166		石鞿張弓 画稿	座して矢を引く石鞿和尚。《三平石鞿》(大正3年頃作、「観山画集」no.186)に近似	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	24.3	32.3	紙本墨画	
	JP-171		石鞿張弓 画稿	弓と矢を手にする老僧の全身像	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	71.9	51.5	紙本墨画	
	JP-172		草廬三顧図 画稿 (仮題)	草廬三顧図の馬に寄る従者か(ただし雪中の装備ではない)	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	59.8	37.5	紙本墨画	
	JP-239		聖徳太子勝鬘経講誦図 画稿	方卓に経巻を開いて座す太子	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	109.0	49.5	紙本着彩	墨書：「衣ハクマドル 裏ヨリ丸イ模様ヲ 薄墨ニテ一面ニ描ク」 色の指示書きあり
	JP-261		陶淵明 画稿	舟で川を行く陶淵明と童子	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	28.8	69.4	紙本墨画	
	JP-279		孔子 画稿	司寇冠をかぶった孔子像	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	51.0	31.8	紙本墨画	
	JP-033 ※		春雨 画稿	東京国立博物館所蔵《春雨》(大正5年作)の右隻画稿(部分、頭部) 【本画：『観山画集』no.71】	大正5頃	1916頃	42/43歳頃	39.1	27.3	紙本墨画	
	JP-038		船頭 画稿 (仮題)	櫂を持つ船頭 [?]の半身像。156は038の左右反転同構図(038には船床と水面の描写あり、156は人物のみ)	大正6	1917	44歳	76.7	27.2	紙本墨画	墨書：「大正六年十二月廿日 十九」
JP-156	船頭 画稿 (仮題)		大正6頃か	1917頃か	43/44歳頃	55.8	27.4	紙本墨画			
その他人物	JP-042	下村観山	弾初 画稿	名都美術館所蔵《弾初》(大正8年作)の画稿(部分、頭部) 【本画：『観山画集』no.222】	大正7頃	1918頃	44/45歳頃	33.2	24.4	紙本墨画	
	JP-044		哲祖 画稿	頭部像。《哲祖》(大正7年頃作、「観山画集」no.158, no.224)に近似(ただし左右反転構図)	大正7頃	1918頃	44/45歳頃	38.7	27.3	紙本墨画、朱、 胡粉	
	JP-045		僧侶 画稿 (仮題)	老僧の頭部	大正8	1919	45歳	39.9	28.1	紙本墨画	墨書：[8.1.10]
	JP-049		僧侶 画稿 (仮題)	老僧の頭部	大正8	1919	45歳	40.0	28.2	紙本墨画、朱	墨書：[8.3.10]
	JP-058		僧侶 画稿 (仮題)	老僧の頭部	大正8	1919	46歳	39.8	28.1	紙本墨画	墨書：[8.11.27]

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど	
その他人物	JP-048 ※	下村観山	梅之夢 画稿	当館所蔵の画稿《梅の夢》[95-JP-00E]の部分図(頭部。ただし左右反転構図)	大正8	1919	45/46歳	40.0	28.1	紙本墨画、朱	朱書：「八年■月廿一日」	
	JP-051 ※		白菊翁 画稿	《白菊翁》(大正9年作)の中幅画稿(部分、翁の頭部と手先)。051と052で頭部の画像がつながる	大正8	1919	46歳	38.8	27.3	紙本墨画、胡粉		
	JP-052 ※				【本画：『観山画集』no.234】			46歳	38.9	27.4	紙本墨画	墨書：「八、五、六」[白菊翁]
	JP-059		糺詞 画稿(仮題)	水辺で談笑する風折烏帽子姿の男性と二人の人物、糺2羽	大正8	1919	46歳	27.3	38.7	紙本墨画	墨書：「8.12月1」	
	JP-061 ※				《三上戸》(大正8年頃作)の各幅画稿(部分)。「怒り」「泣き」「笑い」の各上戸の頭部	大正8頃	1919頃	45/46歳頃	40.0	28.2		
	JP-062 ※		三上戸 画稿			大正8頃	1919頃	45/46歳頃	40.1	28.2	紙本墨画	
	JP-063 ※				【本画：『観山画集』no.63】				40.0	28.0		
	JP-066		菅公・糺 画稿二図(仮題)	配所で筆を執る菅公[?]と、鍬を持ち糺を着る糺	大正9	1920	46歳	27.3	38.7	38.7	紙本墨画	墨書：「九、二、十日」
	JP-067		衣紋 画稿(仮題)	竹杖をつく人物の左袖の衣紋	大正9	1920	46歳	38.7	38.7	27.2	紙本墨画	墨書：「九年三月十一日」
	JP-068		座禪する僧 画稿(仮題)	瞑想する僧の横向きの座像	大正9	1920	47歳	38.6	38.6	27.2	紙本墨画	墨書：「9.10.15」
	JP-105		古代人物 画稿(仮題)	冠(頭巾)を被った男性の頭部	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	40.2	28.1	28.1	紙本墨画	
	JP-106		手 画稿	開いた手先(片手)の図	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.5	28.2	28.2	紙本墨画	
	JP-177		説法する僧侶の手 画稿	画中に説法する僧侶の縮図あり	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	28.1	40.1	40.1	紙本墨画	
	JP-178		手 画稿	跌坐の上に組んだ両手	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	28.2	39.9	39.9	紙本墨画	
JP-112	大石良雄 画稿	《大石良雄》(大正2年作)の画稿(部分) 【本画：『美術画報』34編巻2(大正2年6月20日号)】	大正2頃	1913頃	39/40歳頃	90.3	46.1	46.1	紙本墨画			
JP-113	僧侶 画稿(仮題)	瞑想する老僧の座像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	78.1	55.1	55.1	紙本墨画			
JP-114	僧侶 画稿(仮題)	手を合わせて祈る横向きの僧	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	27.2	38.8	38.8	紙本墨画			
JP-133	僧侶 画稿(仮題)	老僧の座像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	40.1	28.1	28.1	紙本墨画			
JP-135	僧侶 画稿(仮題)	老僧の頭部	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	40.1	28.1	28.1	紙本墨画			
JP-136	僧侶 画稿(仮題)	老僧の頭部	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	40.1	28.0	28.0	紙本墨画			
JP-142	僧侶 画稿(仮題)	老僧の胸像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.9	27.3	27.3	紙本墨画			

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど		
その他人物	JP-147		群僧 画稿 (仮題)	二人の老僧と一人の若い僧の全身像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	77.7	39.7	紙本墨画			
	JP-152		僧侶 画稿 (仮題)	老僧の頭部	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.9	27.3	紙本墨画			
	JP-131		耕作図 画稿 (仮題)	耕作する牛と農夫	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	27.1	39.0	紙本墨画			
	JP-158		騎馬人物 画稿 (仮題)	立烏帽子、狩衣姿の男性の騎馬像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	27.3	19.6	紙本墨画			
	JP-162		脇息に寄る遊女 画稿 (仮題)	兵庫謡の遊女 (162は背景に衣桁あり。163は人物のみ)	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	50.2	58.7	紙本着彩			
	JP-163	大正期			1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	51.2	58.7	紙本墨画淡彩				
	JP-167	人物 画稿 (仮題)	人物 画稿 (仮題)	笑う男の顔。或いは神仙か	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.0	27.4	紙本着彩			
	JP-168				舟遊図 画稿	日傘を差して舟遊に興じる8人の男女	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	57.1	53.3	紙本墨画	
	JP-180				唐美人 画稿 (仮題)	横向きの唐美人/天女 [?] に二羽の尾長鳥	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	55.4	39.3	紙本墨画	
	JP-181	馬と馬子 画稿	馬と馬子 画稿	腰かけて待機する馬と馬子	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	27.3	38.9	紙本着彩			
	JP-186	下村観山 [右] 安田鞆彦 (推定) [左]	酔李白 画稿 [右]、唐美人 画稿 (仮題) [左]	2図が1枚に描かれる (画図の天地は逆)。左の図には「鞆彦」の署名。右の図は北野美術館所蔵《酔李白》(大正7年作、当館「下村観山展」図録no.88)の画稿 (部分)	大正7頃	1918頃	44/45歳頃	28.1	40.0	紙本墨画	左の図に墨書：「鞆彦」		
	JP-235				相合傘図 画稿 (仮題)	高下駄を履いた相合傘の男女	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.9	27.2	紙本墨画	
	JP-236	下村観山 (推定)	人物二人 画稿 (仮題)	人物二人 画稿 (仮題)	うづくまる人物と、盛り込み宙に腕を伸ばす人物	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	19.7	27.2	紙本墨画		
	JP-241					大宮人 画稿 (仮題)	豊の上に座す公卿の単身像	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	39.1	27.3	紙本着彩
	JP-270	読書図 画稿 (仮題)	読書図 画稿 (仮題)	柱に寄り、灯明のもと巻子を手にとったたねする老夫	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	27.1	38.6	紙本墨画			
JP-103	日野資朝 (犬) 画稿	日野資朝 (犬) 画稿	《日野資朝》(大正8年作)の犬の画稿 【本画：「観山画集」no.62】	大正8頃	1919頃	45/46歳頃	24.2	32.7	紙本墨画				
動物	JP-104	下村観山	牡鹿 画稿	葉を啜る牡鹿の頭部。《春秋鹿図》(明治35-39年頃、当館「下村観山展」図録no.38) 右隻の牡鹿に似るが、角の形状は異なる	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	72.2	48.3	紙本墨画			
	JP-179				牡鹿 画稿	牡鹿の頭部	大正期	1910年代-20年代半ば	40代前半-50代初め頃	38.7	27.1	紙本墨画	

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
動物	JP-109	下村観山	鷲八羽 画稿	或いは写生か	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	27.3	38.9	紙本墨画	
	JP-274	下村観山 (推定)	牝鹿 画稿	餌を食む牡鹿1頭と、ひずめの孤大部分図	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	41.4	59.9	紙本墨画	
風景	JP-218	下村観山 (推定)	柳倉風景 [京都]	柳倉、加茂、笠木は現・京都市木津川市にあった町村。218に記された「5月9日」に観山が京都に居たことが明らかなのは大正15年と昭和4年。詳細は本稿注7	大正15か	1926か	53歳か	25.2	34.3	紙本着彩	墨書：「五月九日柳倉あたり」
	JP-219		加茂風景 [京都]		大正15か	1926か	53歳か	24.7	17.4	紙本着彩	「加茂」[京都]
	JP-221		笠置風景 [京都]		大正15か	1926か	53歳か	24.9	34.7	紙本墨画	「笠置」
	JP-233		下木津二題 [京都]		大正15か	1926か	53歳か	34.7	24.9	紙本墨画	墨書：「下木津」
	JP-229		楠寺門外 [奈良]	229と230は画面連続	大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	24.7	34.2	紙本墨画	墨書：「楠寺門外」
	JP-230							24.6	34.2	紙本墨画	
	JP-217		鳥居と仏塔のある風景		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	25.3	34.5	紙本着彩	
	JP-220		竹林と瓦屋根のある風景		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	17.2	25.3	紙本着彩	
	JP-222		寺塔のある風景、石灯笼のある風景 二図		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	25.3	34.2	紙本着彩	
	JP-223		川辺風景		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	12.5	34.7	紙本着彩	
	JP-224		村落風景		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	34.5	24.3	紙本墨画	
	JP-225		屋敷と松樹		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	25.3	34.4	紙本着彩	
	JP-226		町家		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	25.3	34.5	紙本墨画淡彩	
	JP-227		柳のある川辺		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	24.7	34.1	紙本墨画	
	JP-228		棚田		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	24.9	34.7	紙本墨画	
	JP-231		屋根のある風景		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	25.3	34・4	紙本墨画	
	JP-232		屋根のある風景		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	24.8	34.6	紙本墨画	
JP-234	柳と家屋		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	24.8	34.6	紙本墨画			
JP-260	鳥居 二図		大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	25.2	34.4	紙本墨画淡彩			
JP-280	樹木	土塀前の古木と、枝の孤大部分図	大正末か	1920年代半ばか	50代初め頃か	34.5	25.3	紙本墨画淡彩			
その他(書)	M-001		書「人為」	署名の筆致より大正期と推定可	大正期	1910年代- 20年代半ば	40代前半- 50代初め頃	146.7	80	墨	墨書：「観山」
	M-002	下村観山	書「大正十 秋七日」	署名の筆致には明治末期の特徴がある。題字の文言と制作時期の関連は不明	不詳	不詳	不詳	145.5	79.2	墨	墨書：「観山」、方印(書き印)：「観山」

■その他(観山作品以外)

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど	
手本か	JP-189		羅漢図(仮題)	山中にいる八人の羅漢	不詳	不詳		113.2	54.3	紙本着彩		
	JP-190		水神(仮題)	錫杖を持ち、渦の中の宝珠 [?]を見下ろす聖人(光背 あり)	不詳	不詳		127.4	60.3	紙本着画		
	JP-191		郭子儀	郭子儀と二人の童子	不詳	不詳		100.6	54.1	紙本着彩		
	JP-204		蝦蟇仙人	横山肆山(1781-1837)《蝦 蟇仙人》と同図(背景なし)	不詳	不詳		75	54.8	紙本着彩		
	JP-205	不詳	欽拐仙人	『和漢名筆画英 卷五』(1750) 所載「欽拐」の構図に近似	不詳	不詳		61.3	25.8	紙本着画		
	JP-212		猫		不詳	不詳		38.2	26.7	紙本着彩		
	JP-213		犬		不詳	不詳		32.5	25.9	紙本着画		
	JP-214		五仙賞墓図		不詳	不詳		27.8	37.9	紙本着画	墨書：「五仙賞墓図」	
	JP-215		狎		不詳	不詳		37.5	26.9	紙本着彩		
	JP-216		萬歳楽(仮題)	鳥甲の舞楽装束で舞う翁の図	不詳	不詳		53.3	38.6	紙本着彩		
	JP-200		聖女(仮題)	ペールを付けた横顔の聖女	不詳	不詳		52.0	35.5	紙本着画	朱文長方印(蔵印)：「東京美術学校文庫」	
	M-005		騎馬合戦図		不詳	不詳		49.3	66.3	印刷物		
	M-006		崖松に舟		不詳	不詳		38.9	51.8	印刷物	朱文長方印(蔵印)：「東京美術学校文庫」	
	M-007		出山釈迦		不詳	不詳		53.4	30.6	印刷物		
	美校教材か	JP-188-01		模写「一漚上人絵詞伝 式」 断簡	第二巻第一段「信州伴野で 踊躍念仏を始行す」の一部	明治27	1894		39.5	54.2	紙本着彩	墨書：「一漚上人絵詞伝 式」「原写本 鈴 川信一君蔵 明治二十七年三月五日写」、 朱文橢円印「山田画房」
		JP-188-02	不詳 (山田画房印)						39.6	98.4	紙本着彩	
JP-198-02			模写「法然上人絵伝 卷十」 断簡	蓮華王院の御堂に集まる 人々	不詳	不詳		39.4	54.4		墨書(枠外)：「法然上人絵伝」	
JP-198-03								39.3	27.6	紙本着彩		
絵巻模本	JP-198-04							39.3	22.0		朱文橢円印：「山田画房」	
	JP-192		模写「信貴山縁起絵巻」	山崎長者の巻(飛倉の巻)	不詳	不詳		40.1	1060.2	紙本着彩		
その他絵画作品	JP-196-01	不詳	模写「信貴山縁起絵巻」 断簡	尼公の巻の一部	文化13	1816		38.0	212.5	紙本着彩	墨書(巻末)：「文化十三西子夏五月四日 ■亭模写」	
	JP-196-02			尼公の巻の一部				38.0	706.9	紙本着彩		
その他絵画作品	JP-206		不倒達磨図		不詳	不詳		26.4	38.1	紙本着画		
	JP-207		不倒達磨図		不詳	不詳		33.6	22.4	紙本着画		
	JP-210		不倒達磨図	いずれも即興的に達磨を描 くが、それぞれ異なる画家 の手か(席画会などでの競 作?)	不詳	不詳		38.7	27.5	紙本着画	墨書：「不倒々々酔不倒」	
	JP-211		不倒達磨図		不詳	不詳		35.8	26.0	紙本着画		
	JP-208	不詳	達磨大師図		不詳	不詳		54.1	39.0	紙本着画		
	JP-209		達磨大師図		不詳	不詳		24.8	32.5	紙本着彩		
	JP-237		農作業をする女性(仮題)	両手で藁を持つ横向きの女 性。余白に手先の拡大図あり	不詳	不詳		21.4	19.6	紙本着画		
	JP-252		馬	千支画の画稿か	不詳	不詳		24.3	32.6	紙本着画		

分類	登録番号 2011-	作者	作品名	作品備考	制作年 (和暦)	制作年 (西暦)	年齢	寸法縦	寸法横	材質	款識、書き込みなど
その他絵画作品	JP-253	不詳	宝寿と松	茶会記の記された反故紙の裏面を使用したもの(茶会記は「鳴・千・葉・中」の習字練習で上書きされている)	不詳	不詳	不詳	24.0	33.7	紙本墨画	
	JP-254		水牛	座る牛の後ろ姿	不詳	不詳	不詳	30.3	48.3	紙本墨画	
	JP-267	不詳	屋敷見取図	大池を臨む屋敷の見取図	不詳	不詳	不詳	48.3	74.5	紙本着彩	墨書：名室の豊数(拾貳置)「九置」[四置]「ほか」、部屋名(「御奥」「御台所」「御湯殿」「御土蔵」ほか)の記載
	JP-290		(表)(唐美人) (裏)(馬と馬子)		不詳	不詳	不詳	24.2	16.1	紙本墨画、表には朱	
	M-003		雷神図	竹の図の上に書状(内容不詳)が書き重ねられている。裏面にも竹の図。北心斎時代の臨画を反故紙として用いた書状の下書きか	不詳	不詳	不詳	135.5	32	紙本着彩	墨書：「青花作」、朱文長方印：「日本絵師」
絵画作品以外	M-004	不詳	書状(竹の図に文字)		不詳	不詳	不詳	24.2	33.8	紙本墨画	
	M-008		1900年パリ万博のメダル	東京藝術大学所蔵《嗣信最期》(明治33年作) 出品による受賞 付属品：タトウ、桐箱、メダル立て、メダルケース	明治33	1900	27歳		径6.4、厚み0.4	ブロンズ	表面(刻印)：[REPUBLIQUE FRANCAISE] [1900] 裏面(刻印)：[K.SHIMOMURA] [EXPOSITION・UNIVERSELLE・INTERNATIONALE・J・J.C.CHAPLAIN] 側面(刻印)：[BRONZE]
	M-009		つつら	本作品・資料群の一部が格納されて入江家に伝わったもの。内貼りに手書きの屋敷見取図が使われている					高さ16.5、幅32.5、奥行47.5	紙	

Overview of Shimomura Kanzan's Studies, Sketches and Materials from the Former Irie Family Collection

Uchiyama Junko

(Senior Curator, Yokohama Museum of Art)

This paper presents an overview of a total of 304 items, primarily studies and sketches but also including other artworks and materials, of Shimomura Kanzan that were donated to the museum in 2011 by Irie Hiroshi of Utsunomiya City, Tochigi Prefecture.

Another member of the Irie family of Utsunomiya was Irie Biho, a Noh mask artisan who studied under Kanzan's older brother, the Noh mask artisan and sculptor Shimomura Kiyotoki, and married the latter's daughter. Biho's younger brother Irie Tahei was also an apprentice to Kanzan, and for a time was a live-in student at Kanzan's studio in Yokohama. Evidently the Irie family possessed these works and materials due to such connections.

This collection of works and materials, all unmounted, which belonged to the possession of the Irie family includes boyhood copies from when Kanzan studied under Kano Hogai and Hashimoto Gaho under the appellation "Hokushinsai," as well as copies produced as assignments at the Tokyo School of Fine Arts, original works produced in the school's "original works" classes (as opposed to classes focused on copying), and studies for important works from the mid-career period when he led the Saiko Nihon Bijutsuin (the Reorganized Japan Art Institute) along with Yokoyama Taikan and others after the death of Okakura Tenshin. In addition, there is a variety of works that appear to be by unknown artists other than Kanzan, which his teachers may have given him as samples to work from during his youth.

In creating this overview, with regard to titles and dates of works that were unknown when the collection of works and materials was documented in the *Catalog of the Collection: Acquisitions, Donations, and Continual Loans in the Year 2011, Yokohama Museum of Art*, published immediately after the donation, I made every effort to conduct surveys aimed at identifying or inferring the works and production dates, and classified and organized the works by period and subject category. This collection of materials is highly important in that it conveys with great clarity the learning process of Kanzan, who in his mature period arrived at the flowing linear style that earned him the nickname "Kanzan, master of lines," and also shows his ingenuity and creativity in exploring traditional themes. The paper touches on suggestions for new approaches to Kanzan research implied by this collection, and sets these forth as a subject for future study.